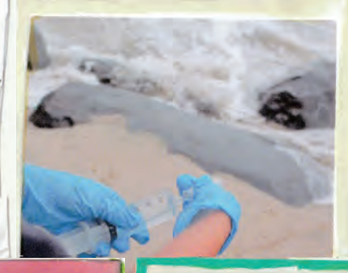
佐波生き物調査隊活動紹介

佐波生き物調査隊は今、中学生2人小学生9人と大人2人で活動をしています。佐波生き物調査隊の活動は今年度は主に加茂川で活動をしています。生き物でよく取れる物はイツマキガイカワニナ、カワゲラ、ヨシノボリの仲間などがあり最近DNAを調べたりします。そして帰って来てみんなでシェアしたりします。雨の日はカメラのつかい方などどのあとの見わけ方などカメラにどんなのがうつっているかなどをかくにんをしています。たまに生き物にくわしい方に魚のとり方などを教えてもらいました。とってもべんきょうになりました。今は産の森の生徒しかいませんが小学生4年から高校3年生まで入れますのでおまちしています。

記者 ゆな もね



あゆ

まずあゆとは川の魚の一種で川庭の藻を食べると体にだんだんきしいるいもようができるらしいです。藻がなければ虫を食べるそうです。今回は加茂川によくあゆをつりに来ている有田和樹さん(に4/25にお話をきいてみました。有田さんはつりが好きで加茂川に来ていて、あゆ、加茂川の昔のことも知っているんです有田さんは何年もあゆをつっていますが一番でかかったあゆは20センチだそうです!!でか有田さんはつり方もおしえてくれました!!よくみんながつるつり方は「ともづり」と言って、まず いっぴきかつり、あゆのはなにはりをズれちがうあゆのナワバリにいれるとそのあゆが買ったあゆをそれでつれるそうです。でもけっこうむずかしいらしいです。でも有田さんは「ともづり」は好んでいなくあゆがさずついちゃうからあまりやらないらしいです。有田さんはけっぱりをつけてつるそうです!!けっぱりにもこゆるいがあり有田さんはけっぱりコレクションを見せてもらいました。もうほんとうにきちょうなお話をきかせてもらいました。みんなもぜひさなおいきものちゃうさたいに入って来!!ゆな

シロウオ

シロウオはとうめいできれいです。
シロウオは死んだら白くなります。シロウオは川で卵をうんでこどもが海にながされて海でそだちます。シロウオは、フグ、アユ、サギやウなどにたべられます。たかふみさんがシロウオにくわしいです。
たかふみさんはかもがわのむかしのことがとってもくわしいです。
シロウオは卵をうむと死にます。シロウオは小さいです。
シロウオは生でたべられます。そのことをオドリグイといいます。たかふみさんはシロウオをごはんにかけるとおいしいといっていました。でもわたしはたべたことがありません。だからおいしいかはわからない。
シロウオはこの大きさ。

シロウオはこけをたべる。こけというのはも。
もというのはみずのなかのしょくぶつ。

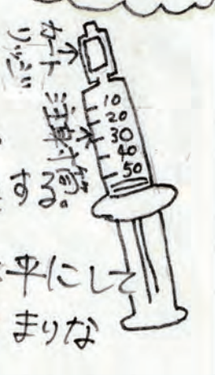
これをかいたひとはうみとはかとだよ

環境DNAとは

あらゆる環境には生息する生物由来のDNAが存在しています。そのDNAを総称して環境DNAと呼んでいます。それらのDNAを調べればどんな魚がそこに生息しているかが分ります。

川の環境DNAのやり方超簡単に

バケツに川の水を入れ注射筒で吸い上げ50mlに合わせる。
↓
注射筒にカートリッジを付け、50ml 3過する。これを1L分する。
↓
カートリッジに空気入りの注射筒を入れ、排出孔とキップをする。
↓
カートリッジに保存液を入れキップをねじ込みカートリッジを水平にして2〜3回回して完成!



記者 まりな

オサガメ発見!

2024年1月13日木曜日に亀の中でも一番大きな亀オサガメが加茂川の口部付近に漂着しました。今回見つかったオサガメは全長170cm 漂着した時には体重134kgもうオサガメは子供のオスでした。曲甲長134cm 曲甲幅94cmでした。
一部ひどいありさまになっていたけどなかなかていねいそうなと思いました。その後れいしゃな大学の研究者さんや糸島新聞の記者などの方々が来られました。オサガメがどこから来たのかを調べるためにDNA調査を手伝いました。
2024年11月14日(金)には神奈川からウミガメ専門の方福岡からマリンワールドの専門の学生さんが来られて、オサガメの解剖が行われました。解剖後にオサガメは海に返しました。オサガメが佐波で見つかり解剖を見るという貴重な体験ができました。今も佐波の近くを通るとオサガメの事を思い出します。

記者 まこ もね

アライグマ、アナグマ、タヌキの見分け方

この記事では、にてる生きものはやと、アライグマ、アナグマ、タヌキの見分け方と、少しどんな生きものかも、紹介しています。

びょうきでもがぬけて、しゅるいがわからない

よーく見るとちがいがわかるよ。

	アライグマ	アナグマ	タヌキ
ぜんちょう	40〜60cm	58〜68cm	50〜60cm
たべるもの	カエルさかななど	ミミズ、小どうぶつ	とり、ネズミ、かどう
かいせつ	むれで生活する。日本ではペットが野生化。	あなほりがとくい。	夜行性で、木登りがとくい

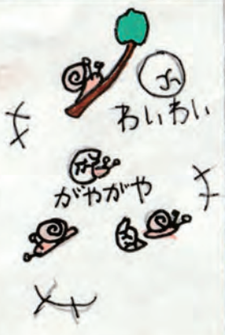
カタツムリの1年のくらし

カタツムリはうずまきのからをうけたなめくじみたいなものです。
カタツムリは冬どうみんします。

春、おきてこうびします。

そしてさんらんします。

そしてふかして大きくなります。

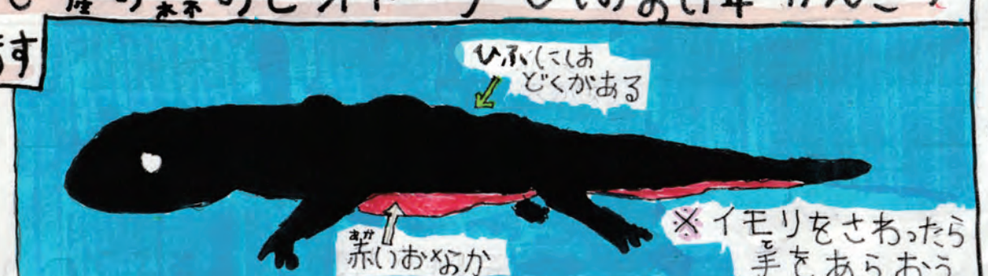


夏、カタツムリがみんします。

秋、大きくなってゆく。

アカハライモリ

まっかなおなかがとくちょう。にほんこゆうしゅでぜんちょう70mm〜130mm。ようせいは田んぼではよくオタマジャクシをたべる。シュレーゲルアオガエルのたまごにあたまをつっこんでいるところをかんさつできる。イモリはむかしから田んぼをまもるとして、したしまれていました。しかし今はイモリを見れる田んぼも少なくレッドリストではじゅんせつめつきぐしゅしゅくになっています。しかし産の森のビオトープではまい年かんさつできています



※イモリをさわったら手をあらおう。

字、絵はおきです

2025年度エフコープ環境助成金事業

17月特大号

2025年